

ゆりはま議会だより

令和 8 年 1 月 31 日発行 発行：鳥取県湯梨浜町議会



「新しい年へ向けて（長栄寺）」関連記事は裏表紙

- 物価高騰に対応 …… 2
- 町営住宅削減 …… 6
- 戦略的誘致へ …… 5
- 9人が熱く議論 …… 8



議会ホームページ・
YouTubeはこちらから！

3億279万円を追加

現金支給で家計を応援

12月定例会に提案された16議案を慎重に審議し、すべての議案を可決しました。また、議員発議による国に提出する意見書1件を原案のとおり可決しました。
12月臨時会では、物価高騰への支援などを内容とする令和7年度一般会計補正予算を可決しました。

補正予算

子育て世帯に 手厚い支援

- ・物価高対応子育て応援手当支給事業

5千768万円

物価高の影響を特に強く受けている子育て世帯を支援するため、高校3年生までの子ども1人につき2万円を現金で支給する。



子育て世帯を応援

現金支給で応援

- ・食料品物価高騰対応家計応援給付金支給事業

8千525万円

物価高騰による家計への負担を軽減するため、町内に住所を有する世帯主に対し、世帯員1人あたり5千円を現金で支給する。

省エネ家電 買い換えを支援

- ・ゆりはま省エネ家電買い換え支援事業

1千28万円

エネルギー価格が上昇する中、省エネ家電買い換えなどへの支援により、家庭の負担軽減および温室効果ガス排出量の削減を図る。

離岸堤の補修に係る 測量設計を実施

- ・海岸施設管理臨時経費

2千232万円

羽合漁港海岸区域（羽合漁港・羽合海岸・宇野海岸）の離岸堤が沈下している。波消ブロックおよび海岸侵食防止機能の回復に向け、測量設計を委託する。

安心・安全な生活へ

- ・防犯対策支援補助金

60万円

高齢世帯に対する犯罪被害を未然に防止するため、防犯対策用品購入費用の一部を助成する。

高精度検査で がんを発見

- ・新たながん検診推進支援事業

150万円

大腸がんおよび肺がん検診で異常がなかった人を対象に、高精度の検査を受診する際の費用を助成する。

本会議での採決結果

件名		議案（陳情）に対する表決 （○：賛成 ×：反対 欠：欠席 棄：棄権）										議決結果	
		光井	小川	河田	増井	小泉	森	米田	浜中	南	三谷		松岡
議案	全議案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	賛成11人 可決
陳情	衆議院議員の定数削減に反対する請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	賛成11人
	臓器移植に関わる不正な臓器取引や移植目的の渡航等を防止し、国民が知らずに犯罪に巻き込まれることを防ぐための環境整備等を求める意見書提出の陳情	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	賛成0人

※議案の採決は、磯江議長を除く11人で行ないます。

請願・陳情審査結果

常任委員会に付託した請願・陳情は、慎重に審査を行ない次のとおり決定しました。

件名	採決結果	委員会の意見
衆議院議員の定数削減に反対する請願	採択	国に意見書を送付
臓器移植に関わる不正な臓器取引や移植目的の渡航等を防止し、国民が知らずに犯罪に巻き込まれることを防ぐための環境整備等を求める意見書提出の陳情	不採択	事実関係の調査および確認が困難である。
保育所等に対する社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情書	継続審査	—
生活保護基準引き下げ違法の最高裁判決を踏まえ速やかな対応を求める陳情	継続審査	—

請願・陳情は、FAX・電子メールでの提出も受け付けます！

記載内容、提出先など手続きに関することは、町ホームページをご確認いただくか湯梨浜町議会事務局へお問い合わせください。

【電話】0858-35-5341 【FAX】0858-35-5342

【メールアドレス】ygikai@yurihama.jp



12月2日、12日に開催した総務産業常任委員会で、執行部から事業説明を受けるとともに、事業の執行状況や効果など詳細について質疑を行いました。その主なものを掲載します。

宇野公園の管理事業者決定

☆県管理の東郷湖羽合臨海公園（宇野地区）の管理業者が中一&スマイルカンパニー（株）に決定した。今後はキャンプ場整備などが順次行なわれる予定。

問 宇野地区への説明会では、騒音やごみの問題などは出なかったか。

答 地元からは騒音・花火・ごみの問題などが出た。管理会社が責任を持って対応する。

問 温泉との連携や海の安全など、町の取組についてはどう考えているか。

答 温泉組合や旅館組合と連携し、入浴は



オートキャンプ場へ改修（宇野公園）

問 この事業は県の事業だが、町としての関わり方は。

答 観光面での関係団体との連携や、地元住民の意見を伝えるなど、町としても関わりを持っていく。

ゆりはま若者会議が新鮮な試みを提言

☆公募で選ばれた高校生、短大生、大学生の委員17人が3チームに分かれ「地域コミュニティ活動の促進」

をテーマに、検討した結果を発表した。

問 提言の内容は。

答 ゆりはまクッキングフェス、はわい温泉街の活性化、ゆりはま大運動会が提言された。

問 発表して終わりではなく、実現に向け、町は委員と考え方をすり合わせていく必要があるのでは。

答 もう一度、委員が集まる場を設け、今後の進め

方について検討したい。

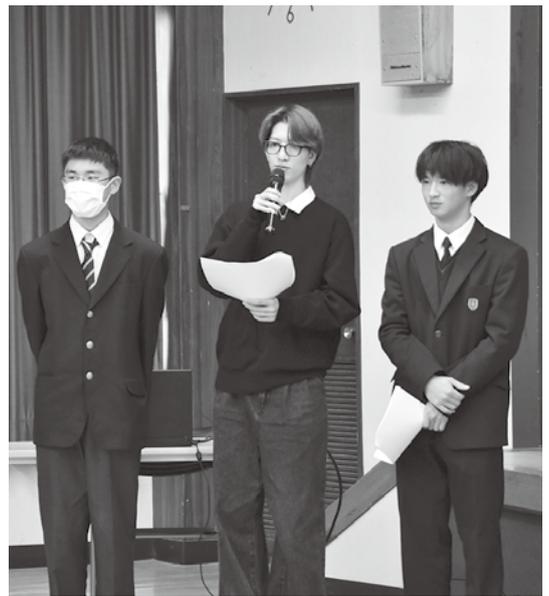
ゆりたうん 利用時間変更

☆ハワイゆりたうんの開館時間を1時間遅らせ、10時とすることを検討している。

1年間試行し、集客などの影響を勘案した上で、本格的な是非を判断する。

問 変更する理由は。

答 運営コストの抑制と効果的な施設運営を維持するため。



熱心に活動内容を発表

旧北溟中学校跡地へ

戦略的誘致を

☆旧北溟中学校跡地への立地企業の募集を開始。町では、製造業、IT関連オフィス、商業施設などで、若者や女性が働きやすい職場であり、既存のたじりこども園への配慮を希望している。

問 前回までの募集の反省をどのように生かしたのか。

答 外周道路の設置や希望業種の例示、分かりやすい募集要項の提示などを行なった。

問 限られた期間で誘致を実現するには、ターゲットを絞って接触していくなど、戦略的な展開が必要では。

答 待つだけではなく、個別の企業訪問なども行なっていく。それと併せて、町民の雇用創出や周辺環境の整備など、必

要な施策を検討していきたい。

問 リスク分散のためにも募集を単一企業に限ら

ず、複数企業による段階的・複合的な活用も想定してほしい。

答 希望者からの提案の中で、様々な選択肢を考えたい。

町の総合計画に「愛」はあるか

☆第5次総合計画の策定が進む。「住みやすく魅力と活気あふれる愛のまち」を前回から引き継ぎ、持続可能

で魅力・活気・温もりのあるまちづくりをめざす。

問 まちづくりアンケートの結果では、全天候型の遊び場や買い物環境、防災体制の整備などを求める住民の声が多くあったが、どのように生かすのか。

答 住民の声に対しては、担当課で個別に対応していく。

問 計画はシンプルで分かりやすくないと、町民に浸透しないのでは。

答 計画はシンプルで分かりやすくないと、町民に浸透しないのでは。

問 中学生にも分かるような表現にし、多くの人に見てもらいたい。

答 職員が町民の活動に参加して地域の実態を知ること、実効性のある施策になるのでは。

問 重要な視点であり、総合計画へは役場職員の姿勢として盛り込みたい。

道の駅はわい 魅力づくりが重要

☆道の駅はわいのコンビニ撤退後の出店者募集について、問い合わせは複数あったが、初期投資の負担増やオーナー確保の難しさから正式な応募には至らなかった。

問 単に店舗を入れるだけでなく、利用者層の特性を踏まえた道の駅としての魅力づくりが重要では。

答 魅力の発信は重要と考えており、出店者と担当課での意見交換や、国との調整を行なっている。効果のある取組を進めたい。

問 幸福の鐘などが整備されてきたが、現在は活用しきれていない。再活用も検討しては。

答 魅力アップのため、いろいろと検討していきたい。



旧北溟中学校跡地

12月3日、11日に開催した教育民生常任委員会で、執行部から事業説明を受けるとともに、事業の執行状況や効果など詳細について質疑を行いました。その主なものを掲載します。

町営住宅を削減へ

☆本町では、上町団地の建替えやレークサイド長江団地の新築を行なってきた。今後、物価高騰や新たな人口ビジョンを踏まえ、30年間で管理戸数を20%程度削減する方針。

羽合・泊地域では、計画の修正案が複数示され、山積した問題が浮かび上がった。また、県営住宅浜団地は、将来的な維持管理や財政負担を考慮し、県から町への譲渡の可否について県と協議を進めていく。

問 本町が県営住宅浜団地の譲渡を受けない場合、住み続けたい入居者は県から直接購入できるのか。

答 購入希望者がいる場合は県と協議して対応したい。その他の入居者には新しい町営住宅への優先入居などを検討していく。

問 建替えの検討にあたり、入居者への説明や不安への配慮はどのように考えているか。

答 急な退去を求めるとは。方針が固まり次第、アンケートや説明を通じて丁寧に周知していく。入居者の声には必ず回答し、安心してもらえるように進めていく。

問 泊地域の町営住宅浜山団地入居者への譲渡について、再度アンケートを行ない、早期売却を検討すべきでは。

答 譲渡希望調査は過去に実施したが、対応が進んでいなかった。入居者の状況も変わっているため、改めて調査を行ない、希望者への売却時期を含め検討する。

「こども誰でも通園制度」4月開始

☆二丁調査を基に、国が示す計算方法で必要定員と受入れ時間を決定した。2園での実施を検討しており、利用料は、国の目安が提示された後に決定する。

問 利用できる子どもは、家庭子育て給付金を受けている子どもか。

答 育休手当を受けている場合など、給付金の対象外であっても、こども園に通っていない生後6か月から満3歳未満の子どもであれば誰でも利用できる。

問 利用時間が月10時間だが、利用方法に制限はあるのか。

答 月10時間の枠内であれば利用回数に制限はなく、1日3時間でも、1時間で月10回の利用でも可能である。

問 通園制度に対応する保育士の勤務体系は。

答 現在、令和8年度の保育士を募集している段階であり、常勤職員の確保状況が未定である。フルタイムか、通園制度対応のみの勤務かについては、今後の状況を見ながら判断する。



入居者への丁寧な対応を（県営住宅浜団地）

遊び場確保に多くの課題

☆雨の日や猛暑日の遊び場確保などの対策として、地域のつながり意識向上の観点からも自治公民館が活用できないか、町が区長に対してアンケートを行なった。

半数以上の区長から、活用はできるが鍵の開閉や保護者の見守りが利用の条件との回答があり、公民館の活用にあたっては多くの課題があることが分かった。引き続き活用方法を検討していく。

問 保護者がイメージする遊び場とは、どのようなものか。

答 屋内で走り回ったり、体を動かしたりして遊べる場所をイメージされている。

問 アンケートに際し、区長への説明方法と内容は。

答 区長には文書を郵送した。保護者から家の近くで遊べる場所が欲しいとの声があったため、公民館が活用できないか、

具体的な活用方法も含めて意見を聞いた。

問 アンケートの趣旨が十分に伝わっていないか。

答 どのような条件なら活用できるのかを聞き取った。混乱された区長には申し訳なく思う。

給食費に追加支援

☆物価高騰による食料費の上昇に対して、保護者の負担軽減や給食の質を維持する目的

で、小学校は現行33円に23円を、中学校は35円に30円を追加で支援する。

問 米飯の高騰が追加支援の理由となっているが、他の食料も高騰している。算定基準は。

答 いろいろな物が高騰しているが、特に米の価格

は11月に470円から約770円と大幅に高騰したため、米価を積算根拠とした。

問 子どものことを考えるとして、副食費の増額分の支援も検討しては。

答 国の物価高騰交付金を給食費のみに充てるのは難しく、町の財政状況を考慮し



最後の生活発表会（太養保育園）

て総合的に判断した。

太養保育園閉園

☆令和8年3月末で太養保育園が閉園、4月からは、ながせこども園の利用定員が126人に減、7月には、ゆりはままなびや園の開園など、町内保育施設の動向について説明があった。

問 太養保育園の閉園理由は。

答 入園児の減少や保育人材の高齢化、施設の老朽化などが理由だと聞いている。

問 現在の太養保育園の園児数と今後の転園先は。

答 現在16人の園児が在籍しており、3人は5歳児のため令和7年度末で卒園。13人の園児については転園手続きを進めている。

一般
質問

町政をただす



12月定例会では、9人の議員が一般質問を行ない、活発な議論を展開しました。

一般質問とは、議員の日常の活動と調査研究、住民の声や自身の考え方にもとづき、町長や教育長の方針を問い質すものです。

質問時間は、答弁も含めて1人60分以内で、質問回数に制限はありません。

質問者	質問事項	ページ
三谷 侑生	町全体でカイゼン文化の醸成を	9
	Uターン促進の強化を	
南 克憲	本町の防災に対する危機管理体制は	10
小泉かさね	プラスチックごみ分別回収事業の意義は	
松岡 昭博	地域共生社会の実現に向けて	11
	「安全で住みやすいまちづくり」に向けて	
森 哲也	観光と交通手段としてポンポン船の復活を	12
	町民主催イベントに支援を	
河田 洋一	防災士育成の取組は	13
	東郷川の維持管理を県へ要望	
米田 強美	かかりつけ医の確保を	14
	公共施設などの管理体制を問う	
増井 久美	空き家問題の早期解決を	15
	羽合図書室の改善を	
小川 遊	「部活動の地域移行」町の方針は	16

町全体でカイゼン文化の醸成を



み たに ゆう き
三 谷 侑 生

町長

業務改善の意識定着が重要



職員提案から生まれた町のLINEアカウント

【三谷】町の経費を適正化し、限られた人材・資源で住民サービス向上を図るには、業務の効率化が必要。また、効率化の取組が成果につながっているか、検証して見直しを継続していくことが重要だが、町の認識と推進の状況は。

【町長】基金は比較的余裕があったが、昨年から減少傾向にある。今後の運用方法が課題となる。業務については、システム化・効率化するアプリを利用して改善を進めている。令和8年度からは、A-の活用に取り組みたい。

【三谷】業務効率化の推進には、職員一人ひとりのカイゼン意識と行動が不可欠。民間企業になり、職員が主体的に改善提案・実践できる仕組みを整備し、町全体でのカイゼン文化の醸成が大きな成果を生むと考えるが、今後の方針は。

【町長】職員提案制度を制定し、行政運営に関する改善提案を広く募集。特に効果が見込まれるものは導入し、処理時間の短縮など、具体的な成果も現れている。職員自らが日々業務を改善する意識を、組織全体に定着させることが重要。

Uターン促進の強化を

町長

県の移住支援制度を学ぶ

【三谷】地域維持のために、若者世代のUターン促進が重要。一方、本町の多くの中学生は「20年後も本町に住んでいる可能性は低い」と考えている。その理由に「働く場所や魅力の不足」が挙げられるが、これをどう受け止めるか。

【教育長】中部ハイスクールフォーラムで、高校生から、都市部に負けない地元企業がたくさんあり、将来は地元に戻ってくるなどの発表があった。小・中学校でのふるさとキャリア教育の充実と工夫が必要。



中学生の声
(湯梨浜中学校文化祭の展示より)

【三谷】働き方の多様化や地価・物価の高騰、子育て環境などでUターンを検討する若者もいる。在宅・リモート勤務、遠隔地居住による雇用も広がる中、都市部への通勤支援など柔軟な展開が有効と考えるが、Uターン促進の方針は。

【町長】県では、デジタル活用支援などで、移住者がスキルを生かした柔軟な働き方ができる環境づくりを進めており、この活動をよく勉強し取り組んでいきたい。通勤費助成は、財源面や公平性の観点から、現時点で町独自の助成制度の新設は難しい。

本町の防災に対する 危機管理体制は



みなみ 南 かつのり 克憲

町長

実災害を想定した防災訓練を実施



防災意識の向上へ
(町総合防災訓練)

【南】毎年、町が行なっている総合防災訓練は簡易的な内容だったと記憶している。実際に災害が発生した際に、高齢者や歩行の困難な人を含めて、全員が無事避難することが可能なのか。本町の防災に対する考えと災害に備えた準備、訓練の内容に関して伺う。

【町長】実災害を想定した防災訓練を毎年実施している。身近な避難場所への避難と地域の助け合いを重視し、高齢者や要配慮者を含め全員が安全に避難できる体制づくりを進めている。

【南】近県で大災害が発生した場合、本町の被災者の受入れ態勢をどのように考えているか。

【町長】相互応援協定や国の制度に基づき、職員派遣や物資支援、避難施設の確保などを行ない、要請に応じて被災者を柔軟に受け入れる体制を整えている。

【南】仮に国が防災庁を設置した際、本町としての危機管理体制をどのように整備しようと考えているのか。

【町長】国が防災庁を設置した際は、産官学民の連携や専門人材の活用、訓練・支援体制の充実を図り、事前防災と災害対応力の向上に取り組む。

プラスチックごみ 分別回収事業の意義は 地域経済の構築と持続可能な まちづくりをめざす



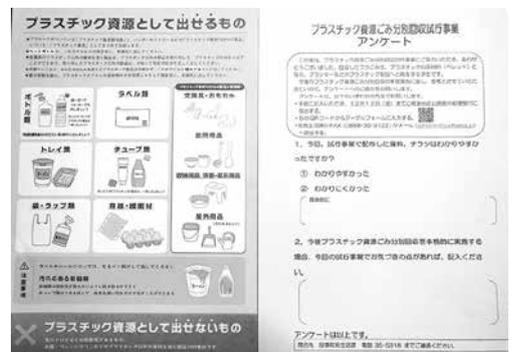
こいずみ 小泉 かさね

町長

【小泉】マイクロプラスチックは母乳や血液、臓器などから検出され、様々な健康被害が報告されている。健康面・経済面・環境面などの観点から見た、プラスチックごみ分別回収の意義は。

【町長】エコバックを活用することで、ごみの削減や温室効果ガスの排出削減、環境負荷の低減につながる。

また、プラスチックの資源化、そして地域内で再生原料へリサイクルして、商品化することにより地域経済の構築、持続可能なまちづくりをめざしたい。



効果的実施のための広報とアンケート

【小泉】当事業および広報の実施計画とその日程は。

【町長】なるべく早く啓発活動をしつかり行ない、理解を深めていくことが大切だと認識している。

【小泉】広報における使用媒体、伝える内容は。特に、動画・番組作成計画などについて、現時点での構想はあるか。

【町長】プラスチック資源を回収、商品化している事業所での研修・見学会や、SDGsの観点をテーマとした講演会の開催も検討している。

地域共生社会の実現に向けて



まつおか 松岡 昭博

町長 重層的支援体制で取り組む

【松岡】福祉に関する町民の意識高揚をどのように図ってきたのか。また、総合計画策定当初より、どの程度高揚したと考えているのか。

【町長】町と町社協が一体となり、認知症サポーター・あいサポーターの養成講座、小・中学校での福祉教育、講演会などを実施している。

【松岡】「地域共生社会」の実現をめざした事業の進捗状況は。また、今年度はどのように取り組んだのか。

【町長】役場内や校長・園長会議、民生児童委員協議会などでの研修、相

談案内の全戸配布、多機関協働支援の強化、ケース会議の適宜開催などに取り組んでいる。

【松岡】本町のひきこもり、ヤングケアラー、老々介護状態の人数と、これまでの支援方法は。

【町長】ひきこもりは41人*で、相談受付や参加支援、アウトリーチ支援を実施。老々介護は10世帯*で、民生児童委員の見守りによる支援。ヤングケアラーは0件*で、支援体制の構築と周知啓発を行なっている。

*県が実施した実態調査結果の数。



階段昇降機（湯梨浜町役場）

「安全で住みやすいまちづくり」に向けて

町長

それぞれの課題に対応

【松岡】本町は、積極的にクマの被害防止対策を出すべきではないか。

【町長】県の制度・知見のもと①目撃情報の記録・共有②農家への技術支援③注意喚起などとあわせて、町のマニュアルや対応決定フロー、緊急連絡体制の整備、緊急銃猟の事前準備を図る。

【松岡】湯梨浜中学校の冷風機導入の目的と、使用されていない理由は。そして、今後どのように対応するのか。

【教育長】熱中症対策で2台を試験導入したが、騒音や水滴の飛散、管理の煩雑さから使用していない。

今後は、社会体育施設での使用を計画している。



街路灯設置が望まれる町道

【松岡】湯梨浜中学校開校時に、町道松崎田畑大橋線の近隣住民から街路灯設置の要望が出たが、それについての考えは。

【町長】町道久見引地線への設置要望はあったが、町道松崎田畑大橋線へはなかった。街路灯設置による水稲への影響が出ないかなど地元で折り合いがつき、要望が出れば着手したい。

観光と交通手段として ポンポン船の復活を



もり 森 哲也

町長 ポンポン船の復活は難しい

【森】過去に松崎駅からはわい温泉を結ぶ交通手段、そして観光資源としてポンポン船の復活が提案されたが、そのときの返答・考えは。また、現在の考えは。

【町長】ポンポン船の実証実験では、イベントでの集客効果は見込めたが、採算性が課題が残った。

現在、町内に一隻あるが、修理に多額の費用がかかるため、廃船するに聞いている。

【森】公共交通機関で本町を訪れる旅行者などが直面する、町内の交通

手段の不足についての考えは。

【町長】宿泊客の多くが自家用車および観光バスを利用するため、タクシーが不足している状況にはない。また、町観光協会が自転車の貸出をしており、町内周遊の手段として好評を博している。

【森】町民の交通手段を確保することによって生まれる効果についての考えは。

【町長】路線バスは、新たな路線の設定よりも、既存路線の維持が現実的な課題だと思っている。



駅前ふなと(松崎浅津連絡船)

かつて東郷湖を行き来していたポンポン船
(写真集『とうご池』より)

町民主催イベントに支援を

町長

事業内容に応じて支援する

【森】これまでに町内でマルシェなどを主催した町民から「収益目的とみなされると場所を借りるのに多くの費用がかかる」という声があった。

例えばハワイ夢広場の利用料は、1時間あたり1万8千200円である。町民が主催する場合には、町の賑わいを一町民としてつくるという意気込みを考慮して、町の土地や建物などの利用料を再考してみるなどの意向はないか。

また、町民の活動に込め、後援・協賛・広報支援などの体制を整えてほしいとの声があるが、町の考えは。



県が管理しているハワイ夢広場

【町長】ハワイ夢広場は県立都市公園で、県が管理している。営利的なものには除き、専用利用でない限り自由に利用できる。

また、町有施設においては町長が必要と認める場合の規定もあり、マルシェの公益性が高ければ、利用対象者に考えていくことは可能だと思う。

町が後援する場合には、支援制度もある。公益性や公共性、非営利性を審査した上で、基準を満たす事業については、利用料の減額、あるいは全免も可能となる。

防災士育成の取組は

町長

防災研修会を開催



かわた よういち
河田 洋一

【河田】町内における防災士の資格取得者が増えている。今後も、防災活動の指導的な役割を担う防災リーダーの育成を支援し、地域防災力の向上を図るためにも、防災士育成支援事業に取り組んでは。

【町長】リーダー的な役割を担っていただきたいとの思いで、各地区に1人以上の防災士を養成することを目標とし、現在22地区におられる。区長会で、地区からの受講者選出をお願いしながら取り組んでいる。



避難所に集まる住民（町総合防災訓練）

【河田】今後も、増えつつある防災士が共通の認識を持つためにも、一堂に会して防災研修および意見交換のできる「防災士協議会」のような組織を創設しては。

【町長】今年度、町防災特別対策官を中心に、講義・意見交換・実技指導などを行なう防災研修会を開催する計画としている。研修会の中で防災士と意見交換をしながら、協議会などの組織の在り方について、意見を取りまとめて対応したい。

東郷川の維持管理を県へ要望

町長

他町とも連携して

強く要望して行く

【河田】近年、上流より流れ出た土砂が堆積し川底が浅くなっている。また、川底や護岸に生えている樹木も年々大きく成長している。

最近の異常気象により、各地で線状降水帯が多発している状況の中で、堆積した土砂や樹木により、川の流れに支障をきたし、最悪の場合、河川の氾濫を招く恐れがあると思われる。

住民も不安を感じており、東郷川の維持管理を県へ強く要望してほしい。



河川管理の待たれる東郷川

【町長】東郷川は、県が2級河川として管理しており、直近の管理状況を確認しながら要望している。県も河川維持費配分が大変厳しく、以前のような予算確保は難しいというのが現状である。

2級河川全般が同様な状況であると認識している。災害防止の点からも他町とも連携して、あらゆる機会を通じて県へ強く要望していく。

かかりつけ医の確保を

町長

関係機関と相談、協議を検討



よねだ つよみ
米田 強美



医師会と連携し医療体制維持の取組を
(鳥取県中部医師会)

【米田】町内かかりつけ医の医療体制について、現状の認識は。

【町長】本町の医療機関の現状は、内科3医院、整形外科1医院、小児科2医院、歯科4医院があると認識している。

【米田】医院が閉院となれば、高齢者や交通弱者にとって甚大な影響が出ると予想されるが、町長の認識は。また、安定的な医療体制の維持に向けた取組を実施しているか。

【町長】閉院した医療機関の意見を確認した上で、どのような対応が適切であるか、考えていきたい。

【米田】医学生を対象とした奨学金制度、土地や建物の無償提供や改修費の補助、医師会と後継者問題などについて定期的な協議を行うなど、積極的なサポート体制の構築についての考えは。

【町長】医師会や、場合によっては大学などの関係機関との相談、協議を行なうような形で対策を検討してみたい。

公共施設などの管理体制を問う

町長

適切な管理を検討していく

【米田】旧東郷運動場は廃止となったが、トイレは残っている。トイレの利用目的と生涯学習・人権推進課が管理している理由は。また、夏場から漏水により使用できない状況は問題ではないか。

【教育長】旧東郷中学校跡地利用計画において、トイレは対象から外したため、現在も生涯学習・人権推進課が管理している。

【米田】桜芸品工房と天女桜は、まちづくり企画課が管理し、その他の敷地は教育総務課が管理

復旧の検討に時間を要してしまい、迷惑をかけた。現在は使用できるようにしている。

【米田】旧堀の内団地跡地は、財産管理を専門とする部署が管理すべきでは。



利活用が望まれる旧堀の内団地
(松崎1区)

【米田】旧堀の内団地跡地は、財産管理を専門とする部署が管理すべきでは。

【教育長】それぞれの施設を効率的に活用していくために、どう管理していくのが適当であるか、検討していきたい。

【米田】当面は、元々の姿や土地の在り方などを熟知している担当課が管理するほうがよいという考えで、そのままの所属にしている。

空き家問題の早期解決を

町長

個々の状況に応じて支援



増井 久美



空き家を塾に再活用 (田後)

【増井】「危険な空き家」があり、台風や地震などのときに心配との声を聞く。空き家は一つ解決してもまた発生する。空き家問題について早期解決を願う質問する。空き家になってから相談を受けるのではなく、空き家になる前からの相談体制を取ってはどうか。

【町長】町内には319件の空き家がある。空き家になる前の早期相談は、物件の管理などの課題に対しても有効だと認識している。現在も関係課や専門機関と連携して対応しており、今後は事前相談型の支援体制づくりと周知を進める。

【増井】空き家に対する対応は、東郷、泊、羽合ではそれぞれ違うと思う。地域に合った対応が取れているか。

【町長】地域よりも物件の立地や状態など、状況に応じた対応が重要だと考えている。宅建協会とも連携し、個々の状況に応じた助言や支援を行っている。

【増井】町として空き家を借り上げ、イターン・Uターン向けに貸し出しはどうか。

【町長】民間による借上げ事業はあるが、費用面の課題が大きい。町が直接行なうのは難しく、今後は民間活用を基本に研究を進める。

羽合図書室の改善を

教育長

環境整備・資料充実に努める

【増井】本町には、東郷地区に町立図書館、泊地区には、しおさいプラザ、羽合地区では、羽合小学校図書室があり、ここは地域住民との共用になっている。今回羽合図書室の「使いにくい」という声があり、改善を求めたい。

【町長】学校図書館と地域図書館の複合型として整備し、利用スペースを分けて運用している。

【教育長】授業や休憩時間には一定の声が生じるが、学校と連携し地域利用への配慮を行なっている。

【増井】10代〜20代の利用率低迷への対応は。また、電子書籍やデータベースへの対応はどう

なっているか。

【教育長】スマートフォンなどの普及により利用は減少しているが、電子書籍の導入や資料のデータベース化について、県や他自治体と連携し検討を進めている。

【増井】図書館が、調べ物や学習に対応できる場所になっているか。

【教育長】各館に閲覧席



左側、羽合図書室。右は教室棟。(羽合小学校)

や学習スペースを設け、町立図書館では自習にも使えるように集会室を開放している。

【増井】本の購入費や購入冊数は充実しているか。

【教育長】蔵書数は基準を満たしており、今後も環境整備と資料の充実に努める。

「部活動の地域移行」 町の方針は



おがわ ゆう
小川 遊

教育長

国のガイドラインに沿って対応



円陣を組む地域クラブの子どもたち。
制度より早く現場は変化している。

【小川】国の方針変更を踏まえ、町として移行時期とめざす状態をどうか。
地域移行への方針とロードマップの有無は。また、移行は一律か段階的もしくは試行導入か。
【教育長】県教育委員会は県推進計画を11月に改定し、令和10年度までの地域移行・地域連携の方向性をまとめた。これらを参考に国のガイドラインが示された時点で検討していく。

指導者確保、保護者負担軽減、会場・備品確保、子どもの声の反映、協議の場など、地域移行に関する支援の在り方について、どう考えているか。
【町長】6月に湯梨浜町総合教育会議を開き、湯梨浜中学校における部活動の地域移行を議題に加えた。検討状況を関係者に提供しながら進めていく。
【教育長】引き続き部活動指導員・外部指導者の確保を行なっていく。その他送迎や費用負担などは、国や県の示す動向を精査し、適切に対応していく。

防災安全・インフラ

街路灯が点灯していない場所が見られる。夜間の安全確保に課題があるのではないか。

議会（意見交換会）

若い世代や女性の声を反映できるように、開催方法の工夫が必要ではないか。

～意見交換会で出された意見の今後の流れ～

町行政に関するご意見・要望などは、町執行部に回答を求め、議会として検討するものは各委員会で協議していきます。

いただいたご意見に対する回答は、ホームページや議会だよりなどに掲載します。

①意見交換会

町民から意見、
提言を受ける

②町、議会で検討

議会各常任委員会
または
町執行部で検討

③検討結果を公表

町、議会の回答を
ホームページや
議会だよりで掲載

第11回「ふれあい意見交換会」

多くの町民から意見・提言

今回で第11回目となる議会と町民との意見交換会「ふれあい意見交換会」を令和7年11月18日（羽合地域）、19日（泊地域）、20日（東郷地域）の3会場で開催しました。

議会・町政に対して、多くのご意見・提言をいただきありがとうございました。今回号では、ふれあい意見交換会でいただいたご意見などをご紹介します。

各地域参加者数

羽合地域・・・9名

泊地域・・・6名

東郷地域・・・24名

子育て・教育

こども園統合について、検討状況や見通しを示す必要があるのではないか。

小学校によっては学校給食費に差が生じており、負担の公平性を見直す必要があるのではないか。

自治会

地域づくりを担うリーダーを継続的に育成できる仕組みが設けられないか。

公民館での連絡や活動を円滑にするため、Wi-Fi環境の維持管理にかかる費用を支援しては。

健康づくり

東郷池などの地域資源を生かして、ウォーキングなどの健康づくりイベントを展開しては。

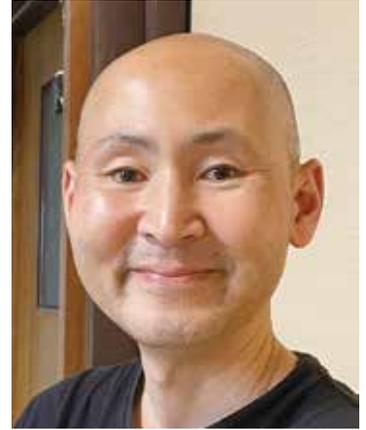


ふれあい意見交換会（東郷地域）

「町に開かれたお寺」

長栄寺住職 ^{いしが}石賀 ^{しょうげん}正元さん

別所地区にある長栄寺で住職をされている石賀さんにお話を伺いました。（聞き手 森 哲也）



別所にある長栄寺です。開かれたのは1705年と聞いていますので、今年で330周年になります。私は歴代で数えると20代目の住職で石賀正元と申します。去年から坐禅や写経を通じてお寺を町に開いていくようなイベントを開催しており、境内には「茶逢い」という喫茶室を設けて訪れた方々に紅茶を振る舞っています。

この人生の中で何度か大きな病気を経験したことから「生きていくうちにやりたいことをやろう」と考えるようになりました。それが、紅茶を深く研究していくことにつながり、喫茶室を開くことに結びつきました。若い頃はお酒の奥深さにもハマリ、倉吉でBARを経営していたこともあります。

お寺は、法事や葬式の相談などを

するためだけの場所と思われていますが、かつては寺子屋など読み書きを学び、神様仏様について知る場でもありました。町に広く開かれた場でもあったと思います。ですのでもっと気軽に喫茶を飲みに来て、何か悩みがあればお話も聞けますし、そういう場所になればいいかなと思っています。

来年は、青空読書（自分の好きなときに自分の好きな本を持ってきて、自分の好きな場所で読む）みたいなイベントができればいいなと考えていますし、毎年恒例の節分もやります。若い方々も含めてわいわいやっていけたら嬉しいです。



議会の傍聴をお気軽に

傍聴は議会の審議内容や、議会活動、町政の内容などを知ることのできる身近な方法です。どなたでも傍聴できますので、役場3階へ、お気軽にお越しください。議会の日程は、広報ゆりはま、防災無線放送、町ホームページでお知らせします。

次回の定例会は

3月2日(月)～
午前10時開会

※日程は変更になる場合があります。
詳しくは町ホームページへ。

編集後記

4月の町議会議員選挙では、4人の新人議員が誕生しました。これにより、これまで平均年齢がおよそ10歳若返ることとなりました。年齢構成が変わっただけでなく、それぞれの新人議員が持つ問題意識や価値観、これまでの経験も実に多様です。

こうした違いがあるからこそ、議論が深まり、新たな気づきが生まれます。これまでの積み重ねを大切にしながらも、町民の皆さんの声により近く、開かれた議会をめざしながら、前進でまいります。

今後も「新しい湯梨浜町議会」の動きに、ぜひ注目していただければと思います。

(記 小川)

【編集】
議会広報常任委員会